

た（プログラム掲載順）。

- 「出生力の指標理論」……………鈴木 透（国立社会保障・人口問題研究所）
「外国人に対する意識の規定要因—ESS と JGSS の比較分析—」
……………小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）

会員総会では学会の国際化に重点を置き、2014年の世界社会学会議の日本への招致を目指すことが提案され、了承された。シンポジウムは「人口減少社会のゆくえ」「岐路に立つ社会学教育」の2本で、前者では本研究所の岩澤美帆主任研究官がコメンテーターをつとめた。（鈴木 透記）

日本地域学会第43回（2006年）年次大会

日本地域学会第43回（2006年）年次大会は、2006年10月7日（土）～9日（月）、千葉商科大学において開催され、研究報告等が行われた。地域学という分野の性質上、人口に関係する研究は少ないが、今大会では「人口」をテーマとするセッションも設けられた。このセッションは8日（日）の午前に開かれ、構成は次のとおりであった。

- 「国内長距離人口移動の決定因の時期的変化について」……………伊藤 薫（岐阜聖徳学園大学）
「都市人口の空間分布に関する計量分析」……………加藤尚史（名古屋大学）
横地浩紀（名古屋大学）
「中国の省間所得格差と人口移動—31省モデルによる分析—」
……………坂本 博（国際東アジア研究センター）

伊藤氏は、日本を10の地域に分けて1955年から2000年までの人口移動を分析し、所得および自然・社会環境アメニティの影響を調べた。加藤氏と横地氏の研究については、横地氏が口頭発表を行い、人口分布を表すモデルを提示して名古屋市における適合性を示した。坂本氏は、中国における地域間の所得格差に注目し、人口移動が経済に及ぼす影響をシミュレーションによって分析した。なお、これらの3報告のそれぞれに対して討論者2名が予め選ばれており、活発な質疑応答が行われた。筆者は横地氏の発表において討論者を務めた。（今井博之記）

2006年人文地理学会大会

2006年人文地理学会大会が、2006年11月11日～13日、近畿大学本部キャンパス（大阪府東大阪市）において開催された。口頭77件、ポスター4件の計81件の一般発表、および4件の特別発表が行われた。人口関連分野については、移民や都市に関連したものをはじめとする報告がなされた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「移民問題に表象される現代スペイン社会の変動」……………長岡 顕（明治大学）
「台湾における少子化と教育問題」……………塩川太郎（中山医科大学）
「ラオス農村の出生力変動と土地利用・人口移動」

- ールアンパバーン県一焼畑村の事例」……………高橋眞一（神戸大学）
- 「移民、地政学、境界線—現代移民の MOVEMENT
 についての—考察—」……………北川眞也（関西学院大学・院）
- 「舞鶴市の居住地域構造—年齢別居住パターンを中心に—」
 ……………山神達也（日本学術振興会特別研究員・立命館大学）
- 「大阪都心部の人口回復と都市再生に関する若干の考察」……………高山正樹（大阪外国語大学）
- 「1920～1935年の沖縄県の死亡力と出生力—人口動態統計
 の補正とその結果—」……………山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）
- 「東京・京阪神大都市圏の居住地域構造—2000年国勢調査データを
 用いたジオデモグラフィクス—」……………熊谷美香（大阪市立大学・院）
 （山内昌和記）

第3回時空間モデリングに関する国際ワークショップ（METMA3）

2004年6月にスペインのグラナダで開催された環境過程の時空間モデリングに関する第2回スペイン・ワークショップ（METMA'04）に引き続き、2006年9月27日（水）～29日（金）にスペインのパンブローナのナバラ公立大学で第3回時空間モデリングに関する国際ワークショップ（METMA3）が開催された。第1回については2001年にスペインのベニカシムで第2回と同様のテーマで開催されたことくらいしかわからないが、第2回はすでに国際ワークショップと言っても良い内容であり、今回から名称が国際ワークショップに変わった。また、環境という言葉もタイトルに入らなくなったが、時空間モデリングが環境科学以外の自然科学だけでなく、社会科学を含む諸分野でも使われるようになってきたことからみても当然のことであろう。健康・死亡を研究する一部の人口研究者は使っているが、出生や移動の分析への応用も可能ではないかと思い、今回、勉強のために参加させていただいた。

1991年に *Statistics for Spatial Data* (Wiley) を出版したこともあってこの分野の創設者の一人となった Noel A. Cressie オハイオ州立大学教授をはじめとする専門家が20名程度招聘され、スペインを含む欧米諸国を中心に数十人が参加していた。アジア出身で欧米で活躍する研究者は若干参加していたが、アジアからの参加者は少なく、H尤度で著名なことから招聘された Youngjo Lee ソウル大学統計学科教授のほかは、“A Contextual Analysis of Allergies in Japan, Drawing on the JGSS-2002 Micro-Data and the PRTR Macro-Data” と題されたポスター報告を許された筆者のみであった。日本には時空間モデリングの専門家が東京大学の矢島美寛教授をはじめとして少なからずおられるが、11月13～15日に東大で Cressie 教授をはじめとする専門家を招聘して時空間モデリングに関する国際会議を開催されることになっていたためか、どなたも来ておられなかった。

なお、国際ワークショップの直前にはバルセロナ自治大学人口研究センターを訪問し、所長の Anna Cabré 教授と旧交を温めるとともに、Albert Esteve 助教授から Cabré 教授と同教授で実施している IPUMS-Europe（センサス個票公開国際データアーカイブのヨーロッパ版）についての話を伺ったり、2008年6月に Cabré 教授が組織委員長となってバルセロナで開催される予定のヨーロッパ人口学会大会についての話を伺うことができた。
 （小島 宏記）